



過去問を生かしていますか？

●先月の創学舎ニュースで「なぜ過去問が必要なのか？」という話が掲載されましたが、今回はその続きです。今回は「千葉県公立高等学校 学力検査」に絞ってお話しします。

●中二生の皆さんは、すでに千葉県公立高校の過去問を三回分解き終わっているはずですが、解いたのが夏休み中だったので、未習内容もあり、かなりてこずったことでしょう。また、塾内で受験している「公開模試」、さらに、各会場で受験する「県立そっくりもぎ」は千葉県公立高校入試の傾向に合わせて作成されています。過去問やこれらの模試を解くことによって、ある程度、各教科の傾向がつかめたことでしょう。過去問を解く第一の目的は「傾向をつかむこと」です。

●第二の目的は「自分の弱点を見つけること」です。皆さんはもう過去問、模試を通して各教科内での弱点分野が客観的に、しかも、具体的にわかるようになってはいるはずですが、まだよくわかっていない人は、解いただけになっただけで、丁寧に自己採点をしたり、模試の成績表を活用したりしていない人です。該当する生徒は「過去問用ノート」や「模試の成績表」を手元を用意して今すぐ分析を始めましょう。

●傾向をつかみ、自分の弱点がわかれば、今後の課題も見つかります。ここで大事な点を二点お伝えするので、ぜひ実行に移してください。一つは「戦略を立てること」。具体的に言うと、試験の際の時間配分や解く順番を決めることです。例えば、国語の時間配分は次のとおりです。

- 一 「放送による聞き取り」(十分)
- 二 「漢字の読み方」
- 三 「漢字の書き方」
- 四 「言語事項」(一・三・四併せて五分)
- 五 「説明的文章の読解」(十分)
- 六 「文学的文章の読解」(十分)
- 七 「古典の読解」(五分)
- 八 「作文」(十分)

●また、解く順番ですが、社会を例に挙げると、得意な歴史は先に解き、苦手な地理は最後にまわす等、自分の得意・不得意によって決めていきます。入試は限られた時間内でいかに効率良く高い得点を取るかを競うものです。ぜひ自分の戦略を早めに立てて、今後の模試で試してください。

●二つ目は、「弱点分野を克服すること」です。弱点分野がわかっただけで、副教材等を生かして弱点克服に努めましょう。当然ちよつとやそつとの学習量で克服できるものではありません。復習して一回正解を出したからといって、入試本番で類題が正解できるとは到底思えません。定期的にも何回も何回も復習することで徐々にできるようになります。皆さんもこのことは理解しているのですが、「辛い」「面倒臭い」「心が折れる」等とあって、なかなかこの訓練を心から必死にやろうともしません。しかし、楽に突破できる道はないのです。苦難を乗り越えない限り、道は開けません。弱点分野に立ち向かう勇氣、これを身につけてください。



●先月号のニュースで過去問を解く意味が四つ掲載されました。「傾向がつかめる」「自分の弱点がわかる」「今後の課題が見つかる」「そして、「最終目標が明確になる」。そこで、最後に

最終目標について触れておきます。千葉県公立高校が第一志望であれば、志望校に前期選抜で合格するために五科で何点取りたいのか設定してください。次に、自分の得意・不得意教科や模試の結果を踏まえて各教科の目標得点を設定してください。これは模試も同様です。模試でも目標点を設定し、各教科の目標点に到達するために今この時期に優先的にこれをやっておこう等、具体的に計画を立て実践してください。

●このように過去問を生かすことにより濃密な受験勉強ができるようになります。この受験を通して皆さんの自己学習能力が大きく飛躍することを願っています。(村田)

勉強法を知らない子供達⑤

●英語も、国語(現代文・古文・漢文)も、理科(物理・化学・生物・地学)も、社会(地理・歴史・公民)も全て好きで、やっているのが楽しいという人を、私は知らない。センター試験で九〇%以上とった卒業生がある程度いるが、全科目楽しくて仕方ないという人は一人だけ。『数学が好きで一日中やっていても楽しいです』という生徒や『生物だったら二十四時間やりたいですよ』というような生徒は、ときどきいる。それでも私が教えた数千人の中の一%にも満たない。



●何をいいたいかというと、どの科目も楽しくならなくてもいいのではないかと、どの科目も好きになれなくても仕方ないのではないかとということである。勿論「好きです。」とか「楽しい。」といってくれる科目ができたなら、それは素晴らしいことである。教える人は、きっとそれぞれの科目でそうなってほしいと願っているはずだ。しかし、私は現在の高校生に英語と日本史を教え

ているが、全員が「勉強は楽しい。」とか「英語が好きです。」「日本史は、やっつけてもあきません。」とかいつてくれるのはとつこの昔にあきらめている。自分の力ではとても無理であると。●では、何を目指しているのか？勉強がイヤでなくなることはある。これが最大の目標である。英単語を毎日やるのがイヤでなくなりました。英熟語も毎日やれるようになりました。構文は毎日やって、学校の教科書は見ただけで訳せます。日本史の二問一答は毎日やっています……。こういった発言は、私へのほめ言葉であり何よりの喜びだ。勿論、こうした声は受験の特定の科目に限定しても、その科目の勉強の入り口にすぎない作業であり、たどりつきたい山の頂はまだまだ先にある。

●英語に話をもどそう。前号まで述べた英単語の回し方でスタート。そして、短時間で感情を動かしてリズムを作って毎日やっていく中で単語が結果的に定着してきたことを体感する。この段階で脳に習慣が一つできる。それから英熟語も指示されたやり方で短時間で続ける。これで習慣が二つ。そして構文(五×十行ぐらいの骨太の英文)を毎日やる。これは少し時間がかかる。当然指示されたやり方は守る。これで習慣が三つ。そして英文法。これは最初から毎日やる人は少ないが、ある程度回数を重ねると毎日やれるようになる。こうして続けて行くうちに知識や体系が身につけてくる。何よりも脳の中にまた習慣が増える。そして何かを身につけるための回路ができてくる。結果、やること(イ)がイヤでなくなる。これが最大の収穫となる。

●さて、ここから長文を含めた総合問題に入るのだが、今度は次の困難が待っている。例をあげよう。①The rumor is proved to be false. (某参考書より) この文の訳は、こうなっている。

「そのうわさは結局うそだった。」これを理解するとはどういうことか。まず、日本語訳が分かったので理解したとする生徒は多いが、これでは伸びない。次に、誠実に悩む生徒がいる。「結局」はどれだろう。「うそ」はどれかな?自分では答がでない。これが、二、三行の英文となる。その訳を読んで深まるばかり。名著といわれる受験用の参考書はたくさんあるが、その全ては、この誠実な生徒達に応えてはいない。そして、恵まれた一部の生徒のみが正しい理解に(無意識に)独力でたどりつく。彼らはこう理解する。①「その噂は」②「だと分かった」③「偽りの(の)、誤りの(の)」と訳せて「その噂は偽りだと分かった」となり、それを解答は日本語らしく「そのうわさは結局うそだった。」と訳してあるのだ。

●世の中の過去問、問題集や参考書は、ほぼ全て、最後の生徒を対象に作られている。何故か? どうすればいいのか? (また次号で)

(小林)

正しい努力をしていますか?

●「勉強しているのに、なかなか成績が伸びない」特に受験生のみなさんの中には、そのように感じている人もいるのではないのでしょうか。受験が近づいてきているこの時期に、志望校の合格判定がよくないと不安に感じますよね。そんなときにこそ、自分の学習を見つめ直していきましょう。

●第一に、学習しているとき「成績上がらないな」「志望校に合格するかな」「このまま学習していても大丈夫かな」などといういろいろなことを考えていませんか。また、自分の文房具や自分の手を眺めている(もしくははいじっている)時間はありませんか。これは、目の前の問題に集

中して取り組んでいない証拠です。目の前の一問に集中していれば、問題以外のことを考えたり、余計なことをしたりする暇はないはず。第二に、過去問や模擬試験のときに、本番と同じ集中力で解いていますか。みなさんが模擬試験を解いている姿を見ると……中には集中していない人もいますよね。試験時間中なのにボーっと何もしていない時間を過ごしている人を見かけることがあります。過去問や模擬試験のときに集中できないのに、本番だけ集中して取り組むなんてことはできません。

●『練習は本番のように、本番は練習のように』という言葉に耳にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。緊張や周りの雰囲気から「本番を練習のように」というのは難しいかもしれませんが。しかし、「練習を本番のように」真剣に取り組むことはできるはず。多くの部活動をしている(または、していた)人は分かると思います。練習試合やリハーサルを適当に行った人なんていませんよね。

●しかし、「集中しなさい」「やる気を出しなさい」といっても具体的な行動が伴うわけではないので、どうしたらいいのか分からないです。自分で「集中しているつもり」「やる気を出しているつもり」でも成果につながらないこともあります。では、どのようにしたらいいのか。それは、正しい努力をすることです。「一時間も漢字練習をした」「今日は英単語を覚えまくったぞ」ではダメ。運動を例にあげましょう。

今よりも速く走れるようにするためには、軽くジョギング程度の走りではダメです。全力で走って、走り終わった後は息が切れ、汗だくになって初めて速く走れるようになります。勉強もそう。「これ解けるかな」「難しそうだな」というような問題に取り組んだり、「大変そうだ

けど五分で解いてみよう」と時間制限をして取り組んだりするなど、自分にとって少し高めハードルを設定してみてください。そうすれば、みなさんの脳みそは汗だくです。それだけではありません。自分に無理そうな課題をクリアした後は、脳が快感を覚え、もっと勉強したい気持ちになっていくはず。●受験はゴールではなくあくまでも通過点に過ぎません。しかも勉強は受験が過ぎれば終わりではなく、一生続くものです。それならば、正しい努力の仕方をつけて、楽しく学習したいです。みなさんには合格という目標に向けて正しい努力をしてほしいと思います。共に頑張りましょう。(上條)

●『練習は本番のように、本番は練習のように』という言葉に耳にしたことがある人は多いのではないのでしょうか。緊張や周りの雰囲気から「本番を練習のように」というのは難しいかもしれませんが。しかし、「練習を本番のように」真剣に取り組むことはできるはず。多くの部活動をしている(または、していた)人は分かると思います。練習試合やリハーサルを適当に行った人なんていませんよね。

子育て奮闘記⑧(前編)

もうこんな時間か。

最近家の中がすっかり静まり返った時間に起きることが多い。というのも、今年の春で次女が保育園を卒業し、小学校へ入学。見送りのために、強制的に起こされるシステムはもう無いかからだ。

みんなが抜けかけてしまった後に起きることの多い私は、朝の様子をこの目では見ておらず、まさに戦場であった朝の様子を、後から妻に聞かされるのである。



長女は部活の朝練に向かうため、一番に家を出る。長男は、のんびりと身支度をする妹を置いて、先に登校班の集合場所まで向かおうとする。置いていかれそうになり、焦る妹は不安そうな顔に。集合場所まで付いて行き、登校班が出発するのを毎日見届ける妻。恐らく兄はすっ

かり忘れてしまっているであろう。かつて彼も、姉に同じことをされ、泣いてその場を動けなくなり、登校班で登校できず、妻に付き添われて登校したことなど。

次女は兄弟の中でも少し離れて生まれたためか、私も含めてまるでお姫様のように扱われて育ってきた。甘え上手で、どう振る舞えば可愛いがつてもらえるのか、分かっているようである。入学式の日、両親に付き添われて登校したが、翌日からは登校班。それを知ったときの「教室までちゃんと行けるかわからない……」という不安そうな妹の様子を見て、毎日下駄箱から自分の教室に向かうというのを続けてくれた長男。すっかりお兄ちゃんをしてあげてくれているではないか。『嫌だけど親からも頼まれているから、仕方なく付き添っているんだ』と言わんばかりの態度をとるくせに、実は心から妹のことを心配しているのかもしれない。次女が入学してしばらくしたあるとき、夕飯時に今日の出来事を聞いていたら、「休み時間に、水飲みに行ったら時間余ったから……」何をしたのかな?と続きを気にすると、「妹のクラスを見に行った」と。

兄と妹のクラスは、校舎も階数も違い、かなり離れている。教室移動のついででもないのに、わざわざ見に行くなんて。「時間あったから、わざわざ妹の教室まで行ってくれたの?」と思わず笑ってしまいがちながら聞く様子に『恥ずかしいから言うんじゃないよ!』という表情をする長男。体の小さい妹のことを、実は親の思う以上に気に掛けてくれているのであろう。そう思うと、とても温かい気持ちになった。さて、そんな可愛いがられている我が家のお姫様を、つい最近、私は怒らせてしまった。

(次号、後編に続く)

(森)